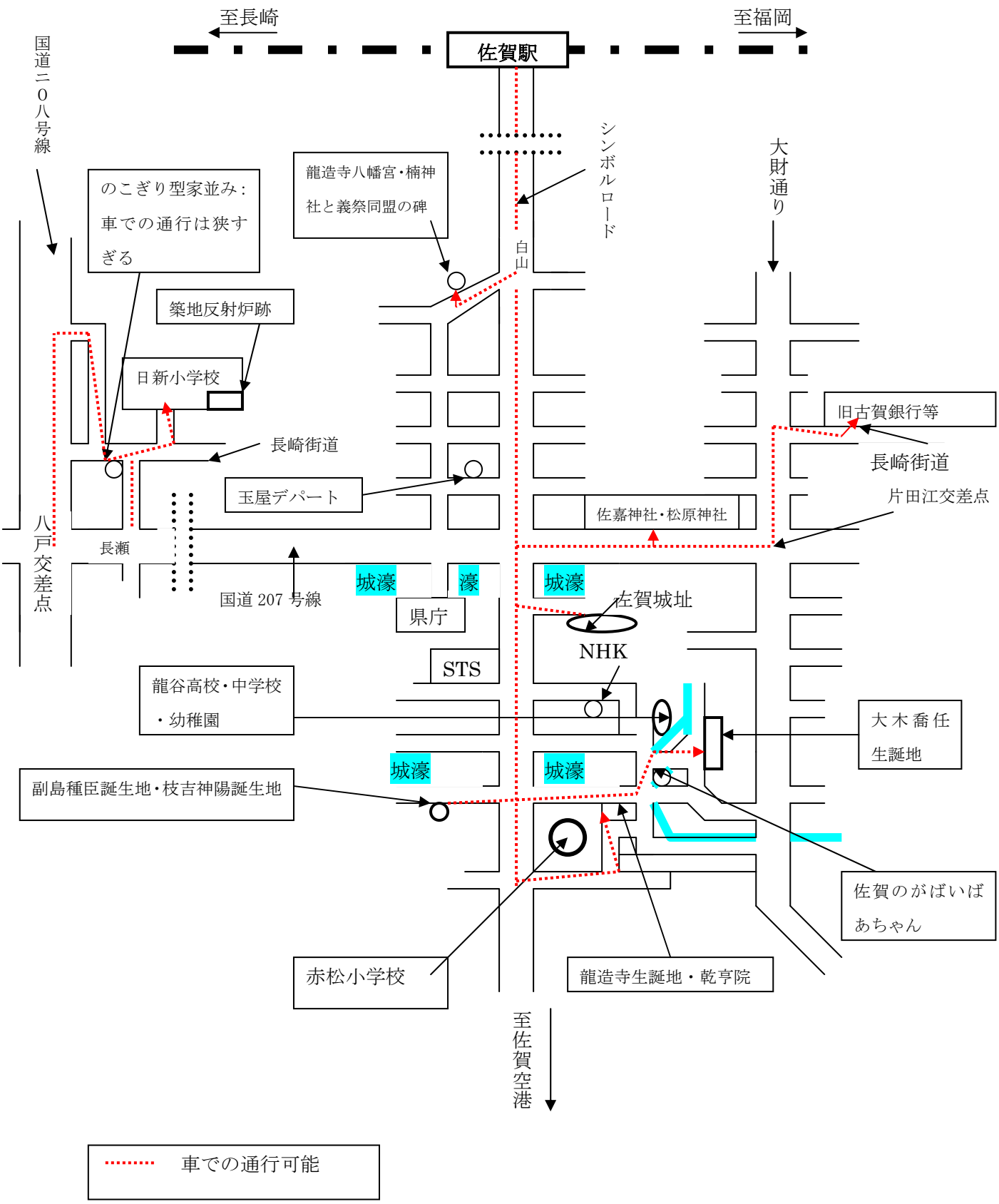
［佐賀市の史跡名勝］

副島種臣誕生地（佐賀市鬼丸町７－18　佐賀県社会福祉会館内）
枝吉神陽誕生地（佐賀市鬼丸町７－18　佐賀県社会福祉会館内）
龍造寺隆信誕生地（佐賀市中の館７　中の館児童遊園内）
乾亨院（佐賀市中の館７－11）
佐賀の「がばいばあちゃん」が住んでいた川辺（佐賀市水ケ江３－５－20 付近）
大木喬任誕生地（佐賀市水ケ江３－４－12　南水公民館内）
佐賀城本丸跡（佐賀市城南２－18－1）
佐嘉神社（佐賀市松原２－10－43）
松原神社（佐賀市松原２－10－43）
旧古賀銀行等（佐賀市柳町２－9）
長崎街道「のこぎり型家並み」（佐賀市八戸１丁目周辺）
龍造寺八幡宮（佐賀市白山１－３－2）
楠神社と義祭同盟の碑（佐賀市白山１－３－2）
築地反射炉跡（佐賀市長瀬町９－15　日新小学校内）

［主要ルートのおおよその距離と歩数］

佐賀駅→佐嘉神社・松原神社 1,900m(2,500 歩)
佐賀駅→赤松小学校　2,400m（3,000 歩）
赤松小学校→副島種臣　300m（500 歩）
赤松小学校→龍造寺隆信・乾亨院　500m（750 歩）
赤松小学校→佐賀の「がばいばあちゃん」が住んでいた川辺・大木喬任誕生地　800m（1,100 歩）
龍造寺八幡宮→長崎街道経由八戸→「のこぎり型家並み」3,200m（4,300 歩）


至長崎
至福岡
佐賀駅
国道二〇八号線
シンボルロード
大財通り
白山
のこぎり型家並み：車での通行は狭すぎる
龍造寺八幡宮・楠神社と義祭同盟の碑
築地反射炉跡
日新小学校
長崎街道
旧古賀銀行等
長崎街道
片田江交差点
玉屋デパート
佐嘉神社・松原神社
八戸交差点
長瀬
国道 207 号線
城濠
濠
城濠
県庁
佐賀城址
NHK
STS
龍谷高校・中学校・幼稚園
大木喬任生誕地
城濠
城濠
副島種臣誕生地・枝吉神陽誕生地
佐賀のがばいばあちゃん
赤松小学校
龍造寺生誕地・乾亨院
至佐賀空港
車での通行可能

副島種臣［そえじま　たねおみ：1828（文政 11）～1905（明治 38）年］

副島種臣の父は佐賀藩士枝吉南濠（30 石：藩校弘道館の教授で国学者）であったが、種臣は同藩の副島利忠の養子となっている。楠公義祭同盟を結成して尊皇攘夷運動の先頭に立ち、1852（嘉永 5）年京都へ上り運動を継続したが、兄神陽の死後、藩学の指導者となった。1864（元治元）年に佐賀藩が設立した長崎の致遠館に学監として赴任、自らも宣教師フルベックについて欧米の諸事情を学んだ。1868（明治元）年明治政府の参与・制度事務局判事となり、政体書の起草や版籍奉還に尽力。特命全権大使として渡清、台湾問題の交渉に努力している。一時、政界を離れたが、1879（明治 12）年宮内省御用掛となり、一等待講を兼務、1884（明治 17）年に華族令制定にともない伯爵、1986（明治 19）年宮中顧問官、1888（明治 21）～1891（明治 24）年枢密顧問官として副議長を務めた。第 1 次松方正義内閣の内相となったが 3 カ月で辞任、1892（明治 25）～1905（明治 38）年再度枢密顧問官となる。能書家としても有名。

枝吉神陽（枝吉経種：えだよし　つねたね）誕生地

枝吉神陽［えだよし　しんよう：1822（文政 5）～1862（文久 2）年］は枝吉南濠の長男であり、次男が副島種臣であった。枝吉神陽は江戸の昌平黌に学んでいるが弘道館の教諭や什物（じゅうぶつ：秘蔵する道具類等）方などを務める傍ら、勤王運動をおこなった。1850（嘉永 3）年には「義祭同盟」を結成。天皇を中心とした政治体制である律令制などの知識を伝授している。この義祭同盟からは副島種臣、大隈重信（早

稲田大学の創始者で、立憲改進党を組織)、江藤新平（倒幕の東征大総統府の軍監となり、江戸鎮台の判事となっている。1872（明治 5）年司法卿となり、司法権の独立、警察制度の統一をはかり、改定律例を制定し、フランス法を直訳した「民法草案」を編纂)、大木喬任（おおき　たかとう)、島義勇（しま　よしたけ：安政年間藩命により北海道・樺太を視察、帰藩後「入北日記」を著した。）ら明治維新に大きな影響を与えた人材を多数輩出している。

龍造寺隆信誕生地

龍造寺隆信[りゅうぞうじ　たかのぶ：1529（享禄 2）～1584（天正 12）年]は 1548（天文 17）年還俗（げんぞく）して家督を継ぎ、民部大輔隆胤と称した。1550（天文 19）年に大内義隆を頼って元服し山城守隆信と改め、佐賀城に拠る。その後一時佐賀城を追われ筑後の蒲池鑑盛（かまち　あきもり）を頼ったが、1553（天文 22）年佐賀城を奪回し、1559（永禄 2) 年少弐時尚（しょうに　ときひさ）を春気城に攻めて滅ぼし勢力を拡大した。1569（永禄 12）年大友義鑑（おおとも　よしあき）と戦うも 1570（元亀元）年和議を結ぶ。そ

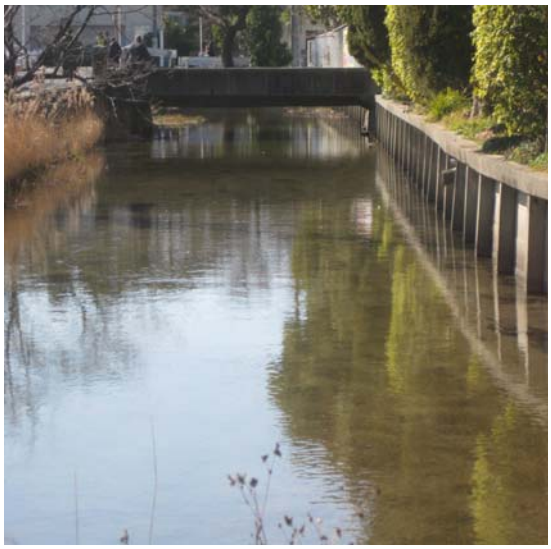
の後、有馬・松浦・後藤の諸氏と戦い勝利し、筑後・日後に進出した。天正年間には肥前・肥後・筑前・筑後・豊前・壱岐・対馬の太守となった。1583（天正 11）年島津義久の援けをうけた有馬義純の叛にあい、1984（天正 12）年義久の弟家久の軍と島原で戦い敗れ自刃した。

乾亨院（けんこういん）

佐賀の役は 1874（明治 7）年 2 月に江藤新平・島義勇らをリーダーとして佐賀で起こった明治政府に対する士族反乱の一つである。不平士族による初の大規模反乱であったが、電信の情報力と汽船の輸送力・速度を活用した政府の素早い対応もあり、激戦の末に鎮圧された。この佐賀の役において戦死した政府軍の墓地が乾亨院である。

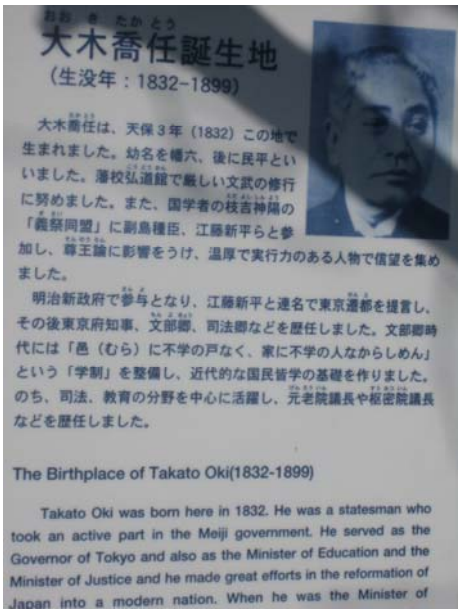
佐賀の「がばいばあちゃん」が住んでいた川辺

佐賀の「がばいばあちゃん」は島田洋七の小説で、その小説を原作としてテレビドラマ化、舞台化および映画化がなされている。



大木喬任誕生地

大木喬任[おおき　たかとう：1832（天保 3）～1899（明治 32）年]は幕末のころ勤王論をとなえ、明治維新後は新政府の官僚となり、外国事務局、京都府、軍務官の各判事を歴任。この間に江藤新平とともに東京遷都を主張し、その功によって東京府知事に就任。1871（明治 4）年民部卿（租税関係）、民部省廃止後は文部卿になり、1872（明治 5）年教部卿（宗教関係）を兼任。1873（明治 6）年参議（今日の大臣にあたる卿より上位）となり、同年 10 月司法卿を兼任。萩・秋月の乱が終わると特命を受けてその地に渡り処刑判決の任務を遂行。1884（明治 17）年伯爵となる。1885（明治 18）年元老院議長、1888（明治 21）年枢密顧問官、1889（明治 22）枢密院議長を歴任。1890（明治 23）年山県内閣の司法相、1891（明治 23）年松方内閣の文省。1892（明治 24）年枢密院議長に再任されている。とくに法典の編纂に尽くしている。子息の遠吉も原内閣の司法大臣を務めている。旧宅跡には二人の記念碑が並んでいる。



佐賀城本丸跡

佐賀城はもともと龍造寺氏が居城としていた村中城を改修・拡張したものである。九州北部に覇を唱えていた龍造寺隆信は 1584（天正 12）年）に島津・有馬連合軍に敗れて戦死した。これを機に龍造寺家臣の鍋島直茂[なべしま　なおしげ：1538（天文 7）～1618（元和 4）年]が実権を握った。直茂は蓮池城が居城であったため、主家（龍造寺）にはばかって城の回収を・拡張をおこなわなかった。計画が実現したのは江戸幕府政権下で正当に佐賀藩主として認められた後の 1602（慶長 7）年に本丸の改修を始めてからである。直茂の計画に則り、次の藩主鍋島勝茂が 1611（慶長 16）年に完成させた。また、元和の一国一城令でかつての居城蓮池城は破却された。

佐嘉神社

十代藩主鍋島直正（閑叟）［なべしま　なおまさ（かんそう）：1814（文化 11）～1871（明治 4）年：閑叟は 1830（天保元）年家督をつぎ、藩政改革に着手。1845（弘化 2）年国産方を設け殖産興業につとめた。反射炉製造、大砲・小銃製造、様式艦船購入など軍事力強化につとめた。1863（文久 3）年公武合体を斡旋。維新後、新政府の議定、軍防事務局輔、制度事務局輔を兼任、さらに上級議長、開拓使長官などを歴任。大隈重信、江藤新平、副島種臣等の人々を新政府に送り込んだ。］と、十一代藩主直大（なおひろ）［1846（弘化 3）～1921（大正 10）年：直大は閑叟の長男。1867（慶応 3）年フランスの万国大博覧会に有田焼を出品。1968（明治元）年の戊辰戦争では藩兵を東北に派遣した。維新後、新政府の議定、外国事務局権輔、外国官副知事、横浜裁判所副総督などを歴任。1871（明治 4）年の廃藩置県後イギリスに留学。その後、イタリア駐在公使、皇典郊講究所長、国学院大学長などをつとめた。］とが祀られている。

-

松原神社

藩祖鍋島直茂とその先祖をまつっている神社である。境内にある白磁の鳥居と灯篭は肥前の陶工が直茂を「御神祖」として寄進されたものである。

旧古賀銀行等

明治 18 年に両替商をしていた古賀善平が設立した銀行で、大正 8 年頃には、九州の 5 大銀行のひとつに数えられるまでに成長。大正 15 年、恐慌により休業に追い込まれ、その後は商業会議所、労働会館などとして改装され、現在、歴史民俗館として大正 5 年当時の姿に復元されている。他に旧三省銀行や旧福田家などの旧家がある。これらは長崎街道沿いにある。

馬責馬場小路
UMASENBABA-KUJI
片田江七小路（佐賀城の東にあって東西に平行に並ぶ武家屋敷街の総称）の一つ。
最も北に位置する小路で、その西端には馬の調練場である馬場（勢屯：せいだまり）があったことから、この名がついたものと考えられる。

歯科
松本

長崎街道「のこぎり型家並み」

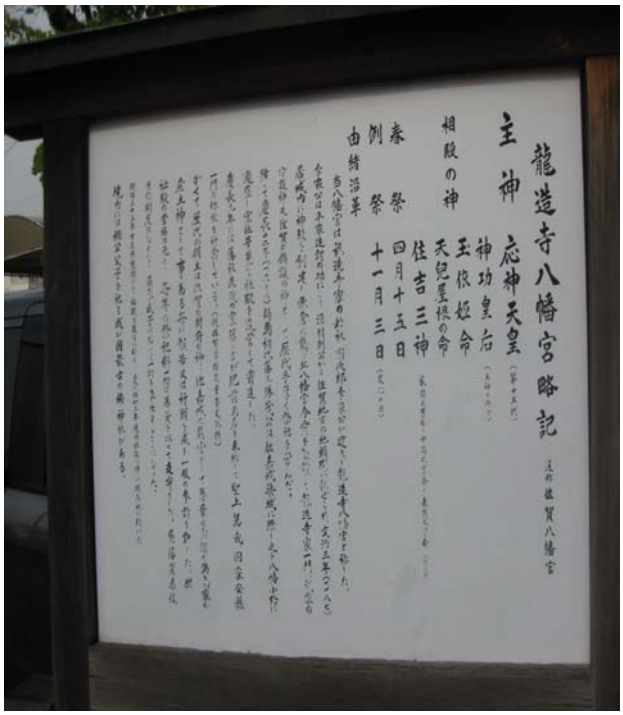
　のこぎり型家並みは佐賀市八戸（やえ）の長崎街道沿いにある。この家並みは戦いのとき家の鉤（かぎ）の部分に隠れ、外敵を防ぐための家並みという説がある。この一帯は白壁の土蔵つくりが多くみられる。

築地反射炉跡

鍋島直正は、わが国最初の洋式反射炉を設け、鋼鉄の大砲を作り上げた。現在、日新小学校の校庭に反射炉の模型と調錬場を示す銅版がある。ここでつくられた大砲は上野の戦や奥羽戦役に用いられたとのことである。のち佐賀市多布施にも増設されている。

龍造寺八幡宮

鎌倉鶴ケ岡八幡宮の分霊を祀ってある。この八幡宮は龍造寺氏の村中城にあったものを佐賀城を築城する際にこの地に移転している。境内にはわが国で最初に楠公父子を祀った楠社がある。またそこには義祭同盟の碑もある。



参考文献

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月.

佐賀市観光振興課『佐賀城下町見て歩き』佐賀市観光振興課,2010 年 12 月.

佐賀観光協会『思い立ったら、佐賀』佐賀観光協会,2011 年 8 月.